



レントゲン装置で、箱の中を透視(上)、顕微鏡で血液中の細胞を探す(下)

健康クリニックお仕事体験 子どもたちが顕微鏡で細胞を探す

1月6日、当協会健康クリニックを会場に「Little KIDS DOM 健康クリニックお仕事体験」を開催しました。親子9組19名が参加し、臨床検査技師や診療放射線技師などの仕事を体験しました。

この取り組みは、子どもたちに体験を通じて将来の選択肢を増やしてほしいと考える団体「キッズダムひろしま」と当協会が主催したものです。当協会としては、職員が企画実践することで自分の仕事の魅力を再発見し、一人ひとりの「幸福」と「心身の健康」を保つウェルビーイングにつながればというねらいがありました。

今回、子どもたちが挑戦した仕事の1つ目は、白血球などの血液細胞を顕微鏡で探したり、尿検査をする臨床検査技師の体験です。お茶やジュースをサンプルに見立てて、試験紙の色が変わる様子を観



察しました。2つ目は、CTやレントゲン検査を行う診療放射線技師の体験です。掃除機のスライス写真を作ったり、X線で箱の中身を当てるなど、実際の機器に触れながら楽しく行いました。

併せて、医師と保健師と一緒に聴診を行い、保護者の心音を聞いたり、看護師と一緒に血圧測定を行うなど、盛りだくさんなお仕事体験でした。

参加者からは、「白血球を初めて見た」「バリウム検査はこんな様子なんだ」と子どもからも大人からも大満足の声をいただきました。運営に関わったスタッフも、「子どもの生き生きとした姿を見ながら一緒に楽しむことができて、有意義だった」と振り返り、大変有意義なイベントになりました。

ウェルビーイング(Well-being)健康、幸福、福祉などに直訳される。疾病がないだけでなく、精神的にも満たされた状態のことをいう。

専門研修 環境協主催のリーダー研修 地域課題解決のきっかけに

【我がまちの魅力発見コース】

12月19日(木)、企画づくりコースをギョッと凝縮し、「魅力」に視点を当てた日帰り研修を実施し、6公衛協2地域協議会から14人が参

加しました。

西中国山地自然史研究会事務局の河野弥生さんに基調講演をいただき、事業に魅力を持たせる工夫のヒントをいただきました。

その後は、どのような事柄に「魅力」を感じるか、参加者同士で共有しました。「おいしい」「きれい」「誰かのために」「ここにしかない」「感動」などさまざまな魅力のきっかけが共有され、これらの魅力を我がまちの活動にどのように取り入れるかを考えました。

【防災・減災コース(水と非常食編)】

1月16日(木)、17日(金)、東部・西部の2会場で開催し、9公衛協から21人が参加しました。

地域づくりコーディネーターの秦野英子さんをお招きし、災害時の備えについて、座学と体験を通じて学びました。午前中はカードゲームを利用して、災害シーンごとに自分に本当に必要な備蓄とは何かを考えました。

非常食の学習では、非常食の種類やローリングストックについて学びました。気になる食品は試食もしい、調理方法や味を確かめたほか、ラップやビニール袋を活用した節水や感染症対策を紹介しました。水の学習では、6輪台車や背負子、ペットボトルやタンクなどを使用して、段差がある場所での水の運搬を体験しました。避難所や給水所、防災井戸から我が家までの運搬方法や水を貯めておく方法についても備えが必要であることを確認しました。

当協会では、引き続き公衛協活動の活性化や地域の課題解決に資する研修を企画してまいります。

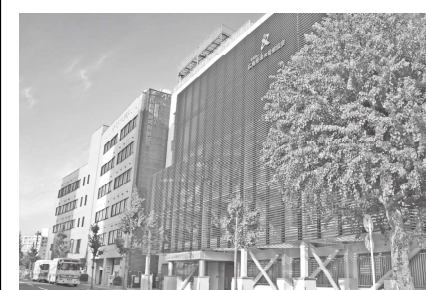
(地域活動支援センター)

里山体験を大切に

2年前に環境保健協会を退職して、もっぱら三次市上田町にあるNPO法人ほしはら山のがっこうで日本自然保護協会の自然観察指導員として活動しています。この団体は、地域住民の理解と協力を得ながら、親子や未就学児童、小中学生を対象とする里山での自然体験を一年中展開しており、ふるさと自然体験交流が20周年を迎えたそうです。この20年間に来訪した500人にアンケートしたところ、125人から回答がありました。集計結果を見ると、自然体験や人とのつながり、地域づくり、子どもの成長など、さまざまな観点から良かった、今もよく思い出す、という感想とともに、スタッフや地域の人たちに会いたいから参加しているという回答がありました。さらに、体験が人

生に大きく影響しているという回答もありました。子どもたちは、里山の景色の中で、生き物と出会い、森や草原の風、野花の香り、田んぼの泥の感触、焚き火の煙、星空や日差し、雪の冷たさなど、五感を使って体験し、学びを深めます。また、一緒に活動する大人や子どもたちから、自分の振る舞い方を学び、成長します。幼少年期の体験は初めてのことが多く、原体験として、その後のいろいろな判断に大きな影響を及ぼします。だから、良い原体験が重要です。そこで、里山の再生を目指して森づくりや休耕田を活用した草原の整備を進めるとともに、子どもたちの発見や興味を引き出せるよう観察活動を続け、里山が大好きで広島環境を守ろうとする人が増えていくよう努めたいと思っています。

(環境カウンセラー 上田 康二)



一般財団法人 ~みんなの生命をまもりつづけたい~ 広島県環境保健協会

〒730-8631 広島市中区広瀬北町9番1号(広島県公衆衛生会館)
TEL:082(293)1511 [大代表] FAX:082(293)1520

基本理念 みんなの生命(いのち)をまもりつづけたい。
私たちは、健康づくりと住みよい環境づくりに取り組み、持続可能な社会の発展に貢献します。

かんぽきよう 検索

